

沖縄県立病院群

「美ら島形成外科研修プログラム」



【基幹病院】
南部医療センター・こども医療センター
(日本形成外科学会認定施設)

【連携施設】



中部病院
(日本形成外科学会認定施設)



形成外科KC
(日本形成外科学会教育関連施設)

【地域医療研修施設】



北部病院



宮古病院



八重山病院

【相互連携基幹施設】



名古屋大学医学部附属病院
NAGOYA UNIVERSITY HOSPITAL



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

【相互連携施設】



独立行政法人国立病院機構
九州がんセンター
National Hospital Organization Kyushu Cancer Center



鳥取大学医学部
Toitri University Faculty of Medicine



琉球大学病院
UNIVERSITY OF THE
RYUKYUS HOSPITAL



沖縄県
OKINAWA PREFECTURE

2024（令和6年）年度

沖縄県立病院群 「美ら島形成外科研修プログラム」

プログラム要旨	
目的	形成外科は臨床医学の一端を担うものとして、先天性あるいは後天性に生じた変形や機能障害を外科的手技や特殊な手法を駆使することにより、形態と機能を回復させ、Quality of Life の向上に貢献する外科系専門分野である。国民の健康・福祉の増進に貢献できるよう、この領域における知識と技能、社会性、倫理性など医師として適性を備えた専門医を育成することを目的とする。
責任者	石田 有宏 (沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 形成外科部長)
専門研修 基幹施設	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 所在地：沖縄県南風原町字新川 118-1
専門研修 連携施設	沖縄県立中部病院 (医) ころも満足会 形成外科KC 九州がんセンター
相互連携 基幹施設	名古屋大学病院形成外科・鳥取大学病院形成外科 九州大学病院形成外科・琉球大学形成外科
指導医数	4名
募集人数	3名
研修期間	2024（令和6）年4月1日～2028（令和10）年3月31日（4年間）
本プログラムの 特色	<ul style="list-style-type: none">■離島を抱えた遠隔地である沖縄で実現させる、地域完結型医療モデル■General Plastic Surgeon の育成。■外科系研修修了者のステップアップとしての形成外科研修■学習者であると同時に、「教育者である専門医（指導医）」を目指した専攻医の育成■グローバルスタンダードな視野を持った専門医育成

目次

- 1 形成外科専門医の使命
- 2 専門研修の成果、プログラム概要
- 3 募集要項
- 4 形成外科専門研修はどのようにおこなわれるか
 - 研修期間
 - 学問的姿勢
 - 専攻医の修了要件・修了判定
 - 専攻医の就業環境について（労働環境、労働安全、勤務条件）
 - 研修休止・中断、プログラム移動
 - キャリア設計
- 5 施設群による専門研修コース
 - 概要 施設紹介、ローテーション計画
- 6 カリキュラム
 - 到達目標：知識、技能、態度
 - 基礎的臨床能力（コアコンピテンシー）
- 7 研修方略
- 8 評価方法
- 9 プログラム管理
- 10 プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

1 形成外科専門医の使命

形成外科専門医は、形成外科領域における幅広い知識と練磨した技術を習得することはもちろん、同時に医学発展のための研究マインドを持ち、社会性と高い倫理性を備えた医師となり、標準的医療を安全に提供し国民の健康と福祉に貢献できるように自己研鑽する使命があります。

2 専門研修後の成果

「美ら島形成外科専門研修プログラム」の目標と特徴

■離島を抱えた遠隔地である沖縄で実現させる、地域完結型医療モデル

当プログラムは本土から地理的にも隔離され、広範囲の離島を抱えた沖縄県で全県を網羅する県立病院群を中核として形成される。地域の最終病院であり地域完結型医療をめざしており、少数精鋭での密な連携が必要とされる。

■General Plastic Surgeon の育成。

地域完結型医療を目指すなかで、常にジェネラリストとスペシャリストとしての視点の両立が求められる風土が沖縄県にある。幅広いジェネラリストとしての視点「熟達した形成外科」となるための「足腰」となることを意識した研修は、将来のサブスペシャリティーへの基礎固めとしても重要な期間となる。スペシャリストと思われがちな「形成外科」において敢えて、**general plastic surgeon** を意識した研修を提供します。

■外科系研修修了者のステップアップ*としての形成外科研修

形成外科は応用外科として特に各科との共同手術時に真価が問われ、成果を発揮できる機会がある。他の外科系研修（一般外科、整形外科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、脳外科等）をベースに持ち、各分野に精通することで、各科との対等な議論、治療方針決定が行え、より質の高い形成外科診療が可能となります。また境界領域、学際的なテーマについての積極的な学会発表、論文作成にもつながります。当プログラムの指導医は一般外科研修修了後に形成外科を修めたものが多く、同じ気概をもった専攻医を強く希望します。

*必ずしも他の外科系研修終了は採用の要件ではありません

■学習者であると同時に、「教育者である専門医（指導医）」を目指した専攻医の育成

沖縄県における卒後研修プログラムは2017年に50周年を迎えました。当プログラム連携病院である県立中部病院において始まり、現在全県的に拡張されています。「屋根瓦方式」として広く知られる「学びと教え（teaching and learning）」のスタイルは長年中部病院において不文律の形で受け継がれ多くの研修医同士の切磋琢磨の中で培われたものです。

当プログラムの専攻医は学習者であるとともに、各病院において初期研修医に対して、また学年が上がるごとに後進の指導にもあたってもらいます。研修期間中には、成人学習理論の理解と、各人の学習スタイルを意識した学習・指導・評価の実践を目指します。将来の指導医になる視点を持って、知識、技能、態度の涵養に努めてもらいます。

■グローバルスタンダードな視野を持った専門医育成を目指す

専攻医は、上級医、各科医師とは経験レベルでは異なるものの、情報へのアクセスにおいては平等です。情報化社会においては、その量に圧倒されることなく、質に敏感となる必要がありますが、一つの尺度として「グローバルスタンダード」が重要であると考えます。

当プログラム指導医の多くは、臨床留学を通じて、「日本の医療」を外から見、「グローバルスタンダード」を肌感じてきたその経験を活かして医療、研修の質を追求しています。専攻医においても、良質な情報に敏感となることで、適切なコンサルテーションや方針決定等における有用な議論への参加ができるようになります。


日本の標準にとらわれず、グローバルスタンダードの見識を基本として世界に発信できる形成外科医の養成を目指します。コミュニケーションツールとしての英語は不可欠であり、プログラムでは、英文文献を多読する抄読会、英語によるカンファレンス（症例検討会）を定期的におこなっています。

3 募集要項

募集人数	3名
研修期間	2024（令和6）年4月1日～2028（令和10）年3月31日（4年間）
応募方法	<p>1：応募資格：□日本国の医師免許証を有する □臨床研修終了登録証を有する（第98回以降の医師国家試験合格者のみ必要。2016年以降に医師免許を取得し、2024年3月31日までに臨床研修を終了する見込みの者含む）。※2015年以前に医師免許を取得した方は旧制度での研修対象となりますので、個別にお問い合わせください。</p> <p>2：応募期間：2023（令和5）年11月頃予定（日本専門医機構のスケジュールに準じます）</p> <p>3：選考方法：公募による。書類審査および面接により選考する</p> <p>4：提出書類：応募時に履歴書（指定様式）、医師免許証（写し）、志望理由書（書式自由：A4で1枚程度：志望動機、自己アピール等記載のこと） ※採用決定後に臨床研修終了登録証（写し）あるいは修了見込み証明書が必要です</p> <p>5：問い合わせ先・提出先 〒901-1193 沖縄県島尻郡南風原町字新川118-1 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 卒後臨床研修センター 中元 牧子（なかもと まきこ）（内線：5503） Tel: 098-888-0123 Fax: 098-888-6400 E-mail: nanbu_pgmech@hosp.pref.okinawa.jp</p>

【応募から研修開始までの流れ】

当専門研修プログラム管理委員会は、随時研修希望者の病院見学を受け入れています。メールにて2週間前までに必要事項（下記ウェブ参照）を入力してお申し込みください。

<p>沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 卒後臨床研修センター 専攻医 募集要項 https://nanbuweb.hosp.pref.okinawa.jp/trainee/</p>	
---	---

専門研修プログラムへの応募者は、応募期間までに専門研修プログラム担当宛に必要な書類を提出してください。

原則として11月～12月中に書類選考および面接を行い、採否を決定して本人に文書で通知します（日時・場所は別途通知します）。応募者および選考結果については、12月の当形成外科専門研修プログラム管理委員会において報告します。

採用され、研修を開始した専攻医は、各年度の5月31日までに「美ら島形成外科研修プログラム研修開始届」（所定書式）を当形成外科専門研修プログラム管理委員会および形成外科研修委員会（日本形成外科学会）の2か所に提出します。

4 研修はどのように行われるのか

研修期間

形成外科専門医は、初期臨床研修の2年間と専門研修（後期研修）の4年間の合計6年間の研修で育成されます。

初期臨床研修2年間に自由選択により形成外科研修を選択することができますが、この期間をもって全体での6年間の研修期間を短縮することはできません。

専門研修の4年間で、医師として倫理的・社会的に基本的な診療能力を身につけると、日本形成外科学会が定める「形成外科専門研修カリキュラム」（資料1）にもとづいて形成外科専門医に求められる専門技能の修得目標を設定します。それぞれの年度の終わりに達成度を評価したのち、専門医として独立し医療を実践できるまでに実力をつけていくように配慮します。具体的な評価方法は後の項目で示します。

学問的姿勢について

指導医は専攻医が研修目的を達成できるよう指導しますが、専攻医も自らの診療内容を常にチェックし、研鑽、自己学習し、知識を補足することが求められます。知識として Evidence-Based Medicine（以下 EBM）は当然その基礎となります。専門研修プログラムでは症例に関するカンファレンスが設定されていますが、これに積極的に参加し、呈示と討論ができるようにしてください。専攻医は受け持ち患者についての疑問を提示し、同僚や指導医から提示された疑問については、EBM に沿って批判的吟味を行う姿勢が重要です。次に、日常の診療から疑問に思ったことを研究課題とし、参考文献を資料として研究方法を組み立て、結果をまとめ、論理的、統計学的な正当性を持って評価、考察する能力を養うことが大切です。そして、専攻医は学会に積極的に参加し、その成果を発表する姿勢を身に付けてください。

専門医の習得及び、その後のサブスペシャリティー分野での専門医習得においては、学会主催の講習会受講、学会発表及び、論文発表がその要件となっています

専攻医の修了要件・修了判定

修了判定について

専門研修4年終了時あるいはそれ以降に、専門研修プログラムに明記された達成到達基準を基に、研修期間が基準に満たしていることを確認し、知識、技能、態度それぞれについて評価を行い、知識、技能、態度に関わる目標の達成度を総括的に把握し、専門研修基幹施設の専門研修プログラム管理委員会において、総合的に終了判定の可否を決定します。知識、

技能、態度のひとつでも欠落する場合は専門研修修了と認めません。

そして、専門研修プログラム管理委員会の責任者であるプログラム統括責任者が、専門研修プログラム管理委員会における評価に基づいて、専攻医の最終的な専門研修修了判定を行います。

修了要件について

【1 研修期間】

形成外科専門研修は 4 年以上とする。但し義務化された臨床研修期間中の形成外科研修は含まない。この規定は第 98 回日本国医師国家試験合格者以降の者に適用する。それに該当しない者については、これと同等以上の形成外科研修を終了したと専門医認定委員会 が認定したものは可とする。ただし、大学院生、時短勤務者や非常勤医などの研修期間に関しては、週 32 時間（ただし 1 日 8 時間以内）以上形成外科の臨床研修に携わったものはフルカウントできる。なお、臨床研修が週 32 時間に満たなくとも、機構の形成外科領域研修委員会が認めた場合には、勤務時間に応じて分数でのカウントもあり得る。研修の実状は当該科の所属長、または施設長が責任をもって認定する。なお、申請内容に疑義が生じた場合、専門委員会で審議することがある。

【2. 研修施設】

形成外科専門研修については、学会が推薦し機構の認定を得た専門研修基幹施設あるいは専門研修連携施設とする。ただし、専門研修基幹施設で最低 6 か月間の研修を必要とする。

専攻医が専門研修プログラムの修了に向けて行うべきこと

【修了判定のプロセス】

専攻医は「専攻医研修実績フォーマット」と「評価シート」（資料 4）を専門医認定申請年の 4 月末までに専門研修プログラム管理委員会に送付します。専門研修プログラム管理委員会は 5 月末までに修了判定を行い、研修証明書を専攻医に送付します。専攻医は日本専門医機構の形成外科専門医委員会に専門医認定試験受験の申請を行います。

【他職種評価】

専攻医は病棟の看護師長など少なくとも医師以外のメディカルスタッフ 1 名以上からの評価も受ける必要があります。

専攻医の就業環境について（労働環境、労働安全、勤務条件）

研修施設責任者とプログラム統括責任者は、専攻医の適切な労働環境の整備に努め、また専攻医の心身の健康維持に配慮し、これに関する責務を負います。

専攻医の安全及び衛生並びに災害補償については、労働基準法や労働安全衛生法及び学校保健法に準じます。給与（当直業務給与や時間外業務給与を含めて）、福利厚生（健康保険、年金、健康診断など）、労働災害補償などについては、各研修施設の処遇規定、就業規則に従いますが、これらが適切なものであるかにつき研修プログラム管理委員会がチェックを行います。

・育児休暇や介護休暇に関しては、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」に準じます。

・当直あるいは時間外業務に対しては、各研修施設において専門医や指導医のバックアップ体制を整えます。専攻医の勤務時間は、1か月単位の変形労働時間を準用し、1か月を平均して1週間あたり40時間の範囲内において定めるものとしますが、専門研修を行う施設の実態に応じて変更できるものとする。

・専攻医が、以下に該当する場合は、休職させる。

- (1) 勤務傷病により、勤務できないとき
- (2) 勤務外の傷病により、勤務できない期間が各施設が定める傷病休暇期間を超えたとき
- (3) その他病院長が休職の必要を認めたとき

※採用時の処遇については、各採用母体の規定による

研修休止・中断、プログラム移動

- 1) 専門研修プログラム期間のうち、出産に伴う1年以内の休暇は1回までは研修期間にカウントできる。
- 2) 疾病での休暇は1年まで研修期間をカウントできる。
- 3) 疾病の場合は診断書を、出産の場合は出産を証明するものの添付が必要である。
- 4) 留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間にカウントできない。
- 5) 専門研修プログラムの移動は、学会に申請の上、移動前・後のプログラム統括責任者と協議した上で決定し、機構の承認を受けるものとする。

キャリア設計

形成外科領域専門医受験資格

専門研修プログラム修了後に形成外科領域専門医資格を受験するためには以下の条件を充足する必要があります

- 1) 6年以上の日本国医師免許証を有するもの。
- 2) 臨床研修 2 年の後、学会が推薦し機構の認定を受けた専門研修基幹施設あるいは専門研修連携施設において通算 4 年以上の形成外科研修を修了していること。ただし、専門研修基幹施設での最低 1 年の研修を必要とします。
- 3) 研修期間中に直接関与した 300 症例（うち 80 症例以上は術者）および申請者が術者として手術を行った 10 症例についての所定の病歴要約の提出が必要です。
- 4) 日本形成外科学会主催の講習会受講証明書を 4 枚以上有すること。
- 5) 少なくとも 1 編以上の形成外科に関する論文を筆頭著者として発表しているもの。（発表誌は年 2 回以上定期発行され、査読のあるものに限ります）

また、専門医資格の更新には診療実績の証明、専門医共通講習、診療領域別講習、学術業績・診療以外の活動実績など 5 年間に合計 50 単位の取得が求められます。

Subspecialty 領域との連続性について

日本専門医機構形成外科専門医を取得した医師は、形成外科専攻医としての研修期間以後に subspecialty 領域の専門医のいずれかを取得することが望まれます。現在 subspecialty 領域の専門医には、日本形成外科学会認定の特定分野指導医として皮膚腫瘍外科分野指導医、小児形成外科分野指導医と日本形成外科学会認定の分野指導医として日本創傷外科学会認定の創傷外科専門医、日本頭蓋顎顔面外科学会認定の頭蓋顎顔面外科専門医、日本熱傷学会認定の熱傷専門医、日本手外科学会認定の手外科専門医、日本美容外科学会 (JSAPS) 認定の美容外科専門医がありますが、今後拡大していく予定です (36 頁を参照)。

当プログラム病院群で得られる subspecialty は、創傷外科、顎顔面外科、手外科、小児形成外科、美容外科 (予定) です、

5 施設群による専門研修コース

施設群の構成と各施設の症例一覧

沖縄県立中部病院と下記の連携施設および地域医療研修施設（計9施設）により専門研修施設群を構成します。

基幹施設	沖縄県立南部医療センター・こども医療センター(病床数434床)
連携施設群	沖縄県立中部病院（病床数550床） （医）こころ満足会形成外科KC 名古屋大学病院形成外科(1080床)、九州大学病院形成外科(1275床) 鳥取大学附属病院形成外科(697床)、琉球大学形成外科(600床) 九州がんセンター(411床)
地域医療研修施設	沖縄県立中部病院（550床）、沖縄県立北部病院（327床） 沖縄県立宮古病院(277床)、沖縄県立八重山病院（288床）

各施設の症例数一覧を示します(2022.1.1~12.31の症例)

施設名		1	2	3	4	5	6	7	8	extra	合計
		外傷	先天異常	腫瘍	ケロイド ・ 瘻痕・瘻痕拘縮	難治性潰瘍	炎症・変性疾患	美容(手術)	その他	レーザー治療	
基幹施設	南部・こども医療センター*	102	76	49	21	18	15	8	1	0	290
連携施設	中部病院	150	65	72	20	33	32	0	45	0	417
	形成外科KC	15	5	1543	17	0	36	181	167	462	2426
	名古屋大学病院*	2	3	33	7	4	2	0	7	6	64
	鳥取大学病院*	8	3	13	6	9	3	0	6	0	48
	九州大学病院*	3	1	6	2	1	1	0	1	0	15
	琉球大学病院*	4	7	21	5	4	4	1	4	0	50
	九州がんセンター*	0	0	23	0	3	0	0	14	0	40
合計		284	160	1760	78	72	93	190	245	468	3350

*他プログラムとの相互連携による按分後の数

病院群施設紹介 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター【基幹施設】

所在地：〒901-1105 沖縄県島尻郡南風原町字新川 118-1

指導医	石田 有宏（形成外科部長）	西関 修（小児形成外科部長）
資格	日本形成外科学会専門医、 日本頭蓋顎顔面外科学会専門医、 日本手外科学会専門医 日本美容外科学会教育専門医、 日本形成外科学会皮膚腫瘍外科指導専門医 日本形成外科学会小児形成外科分野指導医、 AOCMF Japan delegate、医学博士	日本形成外科学会専門医、 日本形成外科学会皮膚腫瘍外科指導専門医、 日本頭蓋顎顔面外科学会専門医、 日本形成外科学会小児形成外科分野指導医、
指導医略歴	1983年 三重大学医学部卒業 1983年 沖縄県立中部病院外科研修 1987年 沖縄県立八重山病院外科医師 1990年 沖縄県立中部病院外科医師 1990年7月～1992年6月 米国オレゴン医科大学(OHSU)形成外科臨床研修 1992年7月 沖縄県立中部病院形成外科医師 1998年4月～1998年7月 米国 UCLA 頭蓋顎顔面外科臨床研修 2000年4月 沖縄県立中部病院形成外科部長 2019年4月 ～現職	1990年 名古屋大学医学部卒 1990年 沖縄県立中部病院 外科研修医 1994年 沖縄県立北部病院 外科 1995年 名古屋大学形成外科 1999年 静岡済生会総合病院形成外科 2002年～ 沖縄県立中部病院 形成外科 2005年 The Hospital for Sick Children (トロント・カナダ) 小児形成外科クリニカルフェロー 2007年 The Hospital for Sick Children 小児頭蓋顎顔面外科クリニカルフェロー 2007年7月～ 現職
患者数	新患 552 名、 入院患者数 221 名	
手術数	外来手術 65 件、 入院手術 476 件	
病院の特徴:	<p>力を入れている領域：小児形成外科全般：先天性眼瞼下垂症、口唇裂、手外科（先天性疾患、外傷）、マイクロサージャリーによる再建術、顎変形症顎骨骨切り手術、顔面外傷</p> <p>教育ポリシー：■「キュレーションマインド*」をもって一例一例を大切に *自分の欲する知識形態を意識しながら「知識の再構築」に向かう考え方</p> <p>■まず「たしなみ」よりはじめよ：形成外科医としての「ふつう」「あたりまえ」を意識しながら専門領域の基礎を築く</p> <p>■See one, describe one, then do and teach one：単なる見よう見まねではなく、知識・技能の内面的な咀嚼があり、アウトプット（自己実現と他者の教育）ができること</p> <p>経験できる症例：形成外科領域全般</p> <p>特殊外来：①小児形成外科外来、②頭蓋顎顔面外科外来</p> <p>設備等：炭酸ガスレーザー、脂肪吸引器、Vビームレーザー（皮膚科にて管理）</p>	
学会認定施設	日本形成外科学会認定施設、日本手外科学会研修施設	

沖縄県立中部病院

所在地：〒904-2293 沖縄県うるま市宮里 281

指導医	今泉 督（形成外科部長）
資格	日本形成外科学会専門医・指導医 日本頭蓋顎顔面外科学会専門医 日本外科学会専門医 日本手外科学会専門医 GID（性同一性障害）学会認定医
指導医略歴	1998年 帝京大学医学部卒業、帝京大学医学部附属病院第二外科 1999年 沖縄県立中部病院外科研修医 2001年 東京医科大学形成外科 2002年 沖縄県立中部病院外科研修医 2004年～ 沖縄県立中部病院形成外科 2010年 China Medical University Hospital, Taiwan. Microsurgery fellow-ship 2011年 Hanyang University Hospital, Seoul.:Microsurgery, observership Kwang-myung Sung-ae General Hospital, Seoul. Hand Surgery, observership 2011年～ 現職
患者数	新患 548名、入院患者数 121名
手術数	外来手術 70件、入院手術 347件
病院の特徴:	力を入れている領域： マイクロサージャリー、性同一性障害、手外科、顔面骨骨折などの顎顔面外科、リンパ浮腫、足病 教育ポリシー： 批判的思考を有し、創造性のあるアイデアを具現化する十分な技術を持つ形成外科医の育成。 経験できる症例： 美容外科を除く形成外科領域のほぼ全て。ローテートするすべての研修医に外来診療を行わせ、初診から、主治医として手術計画、手術、入院管理、外来管理に至る行程のマネジメントを行わせる。 特殊外来： おきなわジェンダーセンター（GID治療）、手の外科外来、リンパ浮腫外来、足病外来、外傷センター、頭蓋顎顔面センター
学会認定施設	日本形成外科学会認定施設、日本頭蓋顎顔面外科学会認定施設 日本手外科学会基幹研修施設、GID学会認定施設

(医) ころ満足会 形成外科KC

所在地：沖縄県那覇市久茂地 2-2-2 (タイムスビル 6F)

指導医	新城 憲	
資格	日本形成外科学会専門医・指導医、日本美容外科学会専門医・指導医 日本形成外科学会皮膚腫瘍外科指導専門医、日本抗加齢学会認定専門医 日本美容外科学会理事、米国美容外科学会正会員 国際美容外科学会正会員、麻酔科標榜医 アラブ首長国連邦医師免許、ドバイ首長国医師免許、医学博士	
指導医 略歴	1984年 愛媛大学医学部卒業 1984年 沖縄県立中部病院研修医 1987年 沖縄県立宮古病院外科医員 1988年 愛媛大学医学部形成外科助手 1994年 沖縄県立中部病院形成外科医長	2004年 沖縄県立那覇病院形成外科部長 2006年 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター形成外科部長 2007年 医療法人ころ満足会 形成外科 KC 院長、現在に至る
患者数	新患 1766名、	入院患者数 0名
手術数	外来手術 2669件、	入院手術 0件
病院の特徴:	<p>当施設は、県庁所在地の中心街にある形成外科医3名（3名とも日本形成外科学会認定専門医、うち2名は非常勤）が所属する無床診療所である。年間の新患者数が2000名余、形成外科・美容外科手術の総件数が年間1400件を超えている。</p> <p>経験できる症例：圧倒的な手術症例の中で日常的な、形成外科小手術手技を短期間で経験・習得できる。体幹の外科手術を中心に、美容外科手技を全般的に経験できる。</p> <p>1～6ヶ月の短期間の研修を想定している。（※詳細は、ローテーションモデルの項参照）</p> <p>過去16年に行われた主な手術は、以下の通り。</p> <p>形成外科関連：皮膚・皮下腫瘍切除術（しこり、ホクロなど）14,455件、皮膚悪性腫瘍切除72件、眼瞼下垂症手術1,807件、眼瞼内反・外反手術196件、腋臭症（わきが）手術559件、乳がん術後乳房再建術185件、毛巣洞手術127件、陥入爪手術1,201件</p> <p>美容外科関連：眼瞼形成術（重瞼、たるみ取りなど）137件、鼻形成術75件フェイス・ネックリフト29件、性同一性障害に対する乳房形成手術115件、豊胸273件、乳房縮小術81件、乳房固定術97件、その他の乳房手術104件、腹壁形成術322件、脂肪吸引術418件、四肢のたるみ取り14件</p> <p>診療内容の詳細は、当施設のウェブサイト（http://www.kokoro-manzoku.com）を参照いただきたい。</p>	
学会 認定施設	日本形成外科学会教育関連施設、 乳房再建エキスパンダー/インプラント実施施設 乳房増大エキスパンダー/インプラント実施施設	

名古屋大学病院形成外科

【相互連携基幹施設】

所在地：〒466-8560 名古屋市昭和区鶴舞町 65 番地

指導医	亀井 譲 (教授)	橋川 和信 (准教授)
資格	日本形成外科学会専門医、日本手の外科学会専門医、日本形成外科学会皮膚腫瘍外科指導専門医、日本創傷外科学会専門医、日本美容外科学会教育専門医、小児形成外科分野指導医、日本形成外科学会再建・マイクロサージャリー分野指導医、乳房再建エキスパンダー/インプラント責任医師 医学博士	日本形成外科学会専門医、日本形成外科学会皮膚腫瘍外科指導専門医、日本創傷外科学会専門医、日本形成外科学会再建・マイクロサージャリー分野指導医、日本レーザー医学会レーザー専門医、がん治療認定医、医師臨床研修指導医、医学博士
指導医 略歴	1984年 名古屋大学医学部卒 1984年 厚生連加茂病院研修医 1985年 厚生連加茂病院外科 1988年 静岡済生会総合病院 外科 1989年 名古屋大学医学部付属病院 形成外科 1993年 愛知医科大学付属病院 形成外科助手 1994年 愛知医科大学付属病院 形成外科講師 1994年 岐阜県立多治見病院 形成外科 1998年 名古屋大学医学部 形成外科講師 2000年 名古屋大学医学部 形成外科助教授 2009年～ 名古屋大学医学部 形成外科教授	1997年 神戸大学医学部卒 1997年 神戸大学医学部附属病院 形成外科 2000年 東京大学医学部 形成外科 2001年 武蔵野赤十字病院 形成外科 2005年 神戸大学医学部附属病院 形成外科 2007年 神戸大学医学部附属病院 形成外科助教 2012年 神戸大学医学部附属病院 形成外科特命講師 2012年 神戸大学医学部附属病院 形成外科准教授 2021年～ 名古屋大学医学部 准教授
指導医	蛭沢 克己 (病院助教)	樋口 慎一 (病院助教)
資格	日本形成外科学会専門医、日本再生医療学会専門医、日本抗加齢医学会専門医、 乳房再建エキスパンダー/インプラント責任医師 医学博士	日本形成外科学会専門医、日本創傷外科学会専門医、日本熱傷学会専門医、 乳房再建エキスパンダー/インプラント責任医師
指導医 略歴	1995年 千葉大学医学部卒 1995年 千葉大学医学部付属病院 形成外科 1996年 厚生連下都賀総合病院 形成外科 1998年 静岡済生会総合病院 形成外科 1999年 名古屋大学医学部付属病院 形成外科 2004年 名古屋大学医学部口腔外科 助教 2010年～ 名古屋大学医学部 病院助教	2003年 名古屋市立大学医学部卒 2005年 茅ヶ崎徳洲会総合病院 研修医 2007年 杏林大学附属病院 形成外科 2008年 静岡済生会総合病院 形成外科 2009年 東京西徳洲会病院 形成外科 2011年 大垣市民病院 形成外科 2015年 JCHO 中京病院 2017年 University of Pittsburgh 2020年～ 名古屋大学医学部 病院助教

指導医	神戸 未来 (病院助教)	
資格	日本形成外科学会専門医、日本創傷学会専門医、 日本形成外科学会再建・マイクロサージャリー分 野指導医、乳房再建エキスパンダー/インプラン ト責任医師、医師臨床研修指導医 医学博士	
指導医 略歴	2008年 名古屋大学医学部卒 2008年 刈谷豊田総合病院 研修医 2010年 名古屋大学医学部附属病院 形成外科 2012年 沖縄県立南部医療センター・こども医 療センター 形成外科 2013年 名古屋大学医学部附属病院 形成外科 2016年～ 名古屋大学医学部附属病院 形成外 科 病院助教	

患者数	新患 210 名、 入院患者数 178 名		
手術数	外来手術 191 件、 入院手術 438 件		
病院の 特徴:	<p>力をいれている領域: マイクロサージャリー、再建外科、先天異常</p> <p>教育ポリシー: 形成外科としての基本的知識・手技の習得と並行して、他施設で治療困難とされた症例に対して、他科とも協力のもと治療を進める課程を学んでいきます。大学病院の使命として臨床研究や基礎研究につながるような医学発展のための研究マインドを育成します。</p> <p>経験できる症例: 遊離皮弁、頭頸部再建、四肢再建、乳房再建、リンパ管吻合、難治性潰瘍、口唇口蓋裂、漏斗胸、顔面外傷、顔面骨骨折、四肢外傷など</p> <p>設備等: 顕微鏡、ナビゲーションシステム、クリニカルシミュレーションセンター</p>		
学会認 定施設	日本形成外科学会認定施設 日本手外科学会基幹研修施設		

鳥取大学医学部附属病院形成外科

【相互連携基幹施設】

所在地：〒683-8504 鳥取県米子市西町 36-1 番地

指導医	八木 俊路朗（教授・科長）	陶山 淑子（助教・副科長）	福岡 晃平（助教）
資格	日本形成外科学会専門医、日本創傷外科外科学会専門医、皮膚腫瘍外科指導専門医、乳房再建エキスパンダー/インプラント責任医師、再建・マイクロサージャリー分野指導医、美容外科専門医(JSAPS)、医学博士	日本形成外科学会専門医、日本創傷外科外科学会専門医、皮膚腫瘍外科指導専門医、乳房再建エキスパンダー/インプラント責任医師、乳房増大用エキスパンダー/インプラント実施医師、再生医療認定医、難病指定医、医学博士、	日本形成外科学会専門医、日本創傷外科外科学会専門医、乳房再建エキスパンダー/インプラント責任医師、医学博士
指導医略歴	2001年 名古屋大学医学部卒業 2001年 刈谷豊田総合病院研修医 2002年 名古屋大学医学部附属病院 研修医 2003年 同 形成外科 医員 2006年 同 形成外科 病院助手 2009年4月同 形成外科 病院助教 2009年12月 同 形成外科 講師 2014年 鳥取大学医学部附属病院 形成外科 講師 2016年2月：同 准教授 2023年4月：同 教授	2004年 鳥取大学医学部卒業 2004年 名古屋大学医学部附属病院 研修医 2006年 鳥取大学医学部附属病院 形成外科 医員 2008年 同 助教 ～	2007年 鳥取大学医学部卒業 2007年 愛知県がんセンター 研修医 2009年 鳥取大学医学部附属病院 形成外科 医員 2023年 同 助教
患者数	新患 216名、	入院患者数 244名	
手術数	外来手術 176件、	入院手術 524件	
病院の特徴:	<p>力をいれている領域： マイクロサージャリー、再建外科、乳房再建、難治性潰瘍</p> <p>教育ポリシー： 『 高度な医療を提供できる、人間性豊かな形成外科医の育成 』</p> <p>経験できる症例： 遊離皮弁、頭頸部再建、四肢再建、乳房再建、熱傷、先天異常、リンパ浮腫、難治性潰瘍、腫瘍</p>		
学会認定施設	日本形成外科学会認定施設		

九州大学病院形成外科

【相互連携基幹施設】

所在地：〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1

指導医	門田 英輝 (准教授)	吉田 聖 (助教)
資格	日本形成外科学会専門医、医学博士 日本頭蓋顎顔面外科学会専門医 日本耳鼻咽喉科学会認定専門医	日本形成外科学会専門医、 日本耳鼻咽喉科学会認定専門医
指導医 略歴	1998年九州大学医学部卒業 1998年九州大学病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科 1999年北九州市立医療センター 耳鼻咽喉科 2000年九州がんセンター頭頸科レジデント 2002年国立がんセンター東病院頭頸科レジデント 2005年浜の町病院 耳鼻咽喉科 2006年九州大学病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科 2009年佐世保共済病院 耳鼻咽喉科 医長 2011年沖縄県立中部病院 形成外科 2014年～ 現職	1997年九州大学医学部卒 1997年九州大学病院研修医 1999年国立がんセンター東病院 レジデント 2002年九州大学耳鼻咽喉科 2004年九州医療センター耳鼻咽喉科 2005年久留米大学 形成外科 2008年九州がんセンター形成外科 2012年九州大学 耳鼻咽喉科 2014年九州大学 形成外科
指導医	上蘭 健一	
資格	日本形成外科学会専門医、日本耳鼻咽喉科学会専門医、再建マイクロサージャリー分野指導医	
略歴	2005年九州大学医学部卒業 2005年福岡赤十字病院 初期研修医 2007年福岡赤十字病院 耳鼻咽喉科 2007年九州大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 2008年九州厚生年金病院 耳鼻咽喉科	2010年国立がん研究センター東病院 2013年九州大学病院耳鼻咽喉・頭頸部外科 2016年九州大学病院 救命救急センター 2018年雪の聖母会 聖マリア病院 形成外科 2021年九州大学病院 形成外科
患者数	新患 224 名、 入院患者数	206 名
手術数	外来手術 6 件、 入院手術	407 件
病院の 特徴:	力をいれている領域：マイクロサージャリー、再建外科、顔面外傷	
	教育ポリシー： 九州大学病院の基本方針である ①地域医療との連携及び地域医療への貢献の推進 ②プライマリ・ケア診療の充実 ③全人的医療が可能な医療人の養成 ④専門医療の高度化を目指した医学研究の推進 ⑤国際化の推進に従い形成外科専門医の育成に努めます。	経験できる症例： 顔面外傷、顔面骨骨折、遊離皮弁、頭頸部再建、四肢再建、乳房再建、植皮、リンパ管吻合、難治性潰瘍 設備等：顕微鏡、内視鏡、ナビゲーション
学会認定施設	日本形成外科学会認定施設	

九州がんセンター

【連携施設】

所在地：〒811-1347 福岡県福岡市南区野多目3丁目1-1

指導医	福島 淳一（形成外科医長）
資格	日本形成外科学会専門医 日本耳鼻咽喉科学会認定専門医 医学博士
指導医略歴	1991年 九州大学医学部卒 1991年 九州大学病院 研修医 1993年 九州大学耳鼻咽喉科 医員 1994年 久留米大学形成外科 助手 2004年 済生会福岡総合病院形成外科 部長 2005年 九州大学耳鼻咽喉科 助教 2013年 福岡赤十字病院耳鼻咽喉科、形成外科 部長 2017年 九州がんセンター形成外科 医長
患者数	新患 154名、 入院患者数 29名
手術数	外来手術 2件、 入院手術 199件
病院の特徴:	力を入れている領域： マイクロサージャリー、再建外科、リンパ浮腫 教育ポリシー： 当院基本理念：私たちは『病む人の気持ちを』そして『家族の気持ちを』尊重し、温かく、思いやりのある最良のがん医療をめざします 経験できる症例： 遊離皮弁、頭頸部再建、乳房再建、四肢再建、リンパ浮腫、難治性潰瘍 特殊外来： リンパ浮腫外来
学会認定施設	日本形成外科学会教育関連施設

琉球大学病院

【相互連携基幹施設】

所在地：〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町上原 2 0 7

指導医	清水 雄介 (教授)
資格	日本形成外科学会専門医, 日本美容外科学会専門医 日本小児形成外科分野指導医
指導医 略歴	平成10年5月20日 慶應義塾大学病院医学部研修医 (形成外科学教室) 平成12年1月1日 栃木県立がんセンター 頭頸科 出向 平成12年5月1日 平塚市民病院 外科 専修医 平成13年5月1日 立川病院外科 専州医 平成14年5月1日 静岡赤十字病院 耳鼻咽喉科 嘱託医師 平成15年6月1日 済生会宇都宮病院 形成外科 医師 平成15年11月1日 済生会中央病院 形成外科 医師 平成16年7月1日 慶應義塾大学医学部助手(形成外科学) 平成17年6月1日 国立成育医療センター 形成外科 医師 平成18年6月1日 静岡赤十字病院 形成外科 医師 平成19年4月1日 静岡赤十字病院 形成外科 副部長 平成22年5月1日 慶應義塾大学助教(医学部形成外科学) 平成25年4月1日 慶應義塾大学講師(医学部形成外科学) 平成26年8月1日 慶應義塾大学准教授(医学部形成外科学) 平成27年2月1日 琉球大学医学部附属病院 形成外科 特命教授 平成30年4月1日 琉球大学大学院医学研究科 形成外科学講座 教授 平成31年4月1日 琉球大学病院 病院長補佐 現職
患者数	新患 279 名、 入院患者数 149 名
手術数	外来手術 0 件、 入院手術 252 件
病院の 特徴:	力を入れている領域： マイクロサージャリー、再建外科、眼周囲の疾患、顔面神経麻痺、リンパ浮腫、再生医療研究、医工連携 教育ポリシー： 医師として必要な基本的 診断能力(コアコンピテンシー)と形成外科領域の専門的能力，社会性，倫理性を備えた形成外科専門医を育成する 経験できる症例 頭頸部再建、顔面神経麻痺、リンパ浮腫、乳房再建、難治性潰瘍、小児先天疾患 など 特殊外来：頭頸部再建外来、リンパ浮腫外来 施設：顕微鏡、クリニカルシュミレーションセンター
学会認定 施設	日本形成外科学会認定施設、 乳房再建エキスパンダー/インプラント実施施設

研修ローテーション計画：モデルケース

General plastic surgeon の育成を目指す当プログラムでは、各施設での診療内容は、形成外科全般にわたります。4年間の研修期間中、基幹病院で最低6か月間研修する必要がありますが、残りの期間については、いろいろな病院をローテーションし、多くの指導医、症例に触れることを推奨します。病院ごとに重点的に診療を行っている分野があり、将来の subspecialty を考えた、計画を立てることも可能です。主な3つの施設をスタートあるいは重点としたモデルケースを提示します。

※基本姿勢としては、研修初めの2年間で基礎をかため、3年目で実践、4年目で専門医試験にむけての成果を上げることが目標とします。

南部医療センター・こども医療センター（医療C）スタート・重点コース

卒後年次	3年次	4年次	5年次	6年目
I	医療C		医療C	中部
II			中部・地域医療 ※	医療C
III	医療C	中部・地域医療※	医療C	
IV			連携	医療C
V			医療C	連携

中部病院スタートコース（例）

卒後年次	3年次	4年次	5年次	6年目	
I	中部	中部	中部	中部・ 地域医療 ※	医療C
II	中部	中部	医療C	中部・ 地域医療 ※	連携
III	中部	中部・ 地域医療※	連携	連携	医療C

※地域研修のため宮古、八重山、北部、中部の各県立病院で基幹病院研修期間または中部病院研修期間中に3か月間のローテーションが組み込まれます。

形成外科KCでの美容外科、形成外科小手術症例の研修については、1～6か月間の短期研修を研修1～4年次にいずれかの時期に組み込むことが可能です

6 カリキュラム

専攻医の到達目標（習得すべき知識・技能・態度など）

基幹施設である沖縄県立南部医療センター・こども医療センターでは general plastic surgeon としての基礎を身につけてもらいます。これには先天異常、外傷、悪性腫瘍の再建、手外科など形成外科全般に渡り、担当医として時には、執刀し主治医となってもらいます。連携施設では、先天異常、悪性疾患の再建、美容外科など将来の subspecialty を考慮し集中的に研修をしていただきます。また、専門研修プログラムでは地域医療の研修が可能です。具体的な到達目標を以下に示します。

1) 専門知識

専攻医は専門研修プログラムに沿って 1) 外傷, 2) 先天異常, 3) 腫瘍, 4) 瘻痕・瘻痕拘縮・ケロイド, 5) 難治性潰瘍, 6) 炎症・変性疾患, 7) 美容外科について広く学ぶ必要があります。専攻医が習得すべき年次ごとの内容については資料 1 を参照してください。

2) 専門技能

形成外科領域の診療を①医療面接②診断③検査④治療⑤偶発症に留意して実施する能力の開発に務める必要があります。それぞれの具体的内容、年次ごとの内容については資料 1 を参照してください。

3) 経験すべき疾患・病態 (資料 1 を参照)

4) 経験すべき診察・検査 (資料 1 を参照)

5) 経験すべき手術・処置 (資料 1 を参照)

6) 地域医療の経験

地域医療の経験を必須とします。沖縄県立中部病院は那覇市から北に 30 数キロのうるま市に存在し、沖縄県の中中部医療圏の地域支援病院及び ER 型救命救急センターを設置した総合的診療ができる地域中核病院であり形成外科の基幹施設であると同時に地域医療の研修も可能です。本研修プログラムでは、指導医が定期的に診療を行っている沖縄県立北部病院、宮古病院と八重山病院でも離島地域の地域医療が研修できます。この間、指導医の元で形成外科プログラム研修としての手術経験を積むことが可能です。この離島地域での研修期間は 3 ヶ月とします。これにより、その地域特有の病診連携や病病連携について理解し、実践します。その内容については、以下の通りです。

- ・ 当直業務における時間外患者や急患の対応
- ・ 形成外科におけるプライマリケアの実践
- ・ 糖尿病性足病変、褥瘡の治療
- ・ 熱傷、顔面外傷、手外傷などの外傷における医療連携
- ・ 開業医との病診連携や講演会などでの交流
- ・ 講演などによる地域医療における形成外科についての情報発信
- ・ その他

専門研修プログラムの修了判定には、経験症例数が必要です。日本形成外科学会専門医制度が定める研修カリキュラムに示されている研修目標および経験すべき症例数を参照してください。（以下の表を参照：資料2と同じ内容）

形成外科領域専門研修における必要経験症例一覧

	経験症例数	経験執刀数	
I 外傷	60	10	上肢・下肢の外傷、外傷後の組織欠損(2次再建)、顔面骨折、顔面軟部組織損傷、頭部・頸部・体幹の外傷、熱傷・凍傷・化学損傷・電撃傷、など
II 先天異常	15	4	頸部の先天異常、四肢の先天異常、唇裂・口蓋裂、体幹(その他)の先天異常、頭蓋・顎・顔面の先天異常、など
III 腫瘍	90	18	悪性腫瘍、腫瘍の続発症、腫瘍切除後の組織欠損(一次・二次再建)、良性腫瘍、
IV 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド	15	3	肥厚性瘢痕・ケロイド、瘢痕拘縮
V 難治性潰瘍	25	3	褥瘡、その他の潰瘍(下腿・足潰瘍を含む)、など
VI 炎症・変性疾患			顔面神経麻痺、手足の炎症・変性疾患、
VII その他			その他(眼瞼下垂、腋臭症、など)
VI VII合わせて	15	2	
VIII 美容外科			手術、処置(非手術、レーザーを含む)
指定症例の総計	220	40	
自由選択枠	80	40	
総合計症例数	300	80	

各年次研修内容概要

専門研修1年目

医療面接・記録：病歴聴取を正しく行い、診断名の想定・鑑別診断を述べることができる。検査：診断を確定させるための検査を行うことができる。治療：局所麻酔方法、外用療法、病変部の固定法、理学療法の処方を行うことができる。基本的な外傷治療、創傷治療を習得する。偶発症：考えられる偶発症の想定、生じた偶発症に対する緊急的処置を行うことができる。

専門研修2年目

専門研修1年目研修事項を確実にこなせることを前提に、形成外科の手術を中心とした基本的技能を身につけていく。研修期間中に 1) 外傷 2) 先天異常 3) 腫瘍 4) 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド 5) 難治性潰瘍 6) 炎症、変性疾患 7) その他 について基本的な手術手技を習得する。

研修前半でめざすこと

植皮、局所皮弁、瘢痕拘縮の手術、骨・軟骨移植の手術手技を学びながら、形成外科で扱う各種組織（素材）についての知識の習得に努める。肥厚性瘢痕・ケロイドの診断と治療、皮膚軟部腫瘍の診断と治療について学ぶ。形成外科における皮弁挙上、マイクロサージャリーによる組織移植術習得の基礎を作る。顔面・四肢を含む外傷患者および熱傷患者の初期治療にあたり、創傷処置手術適応の実際を学ぶ。

学術活動：カンファレンスでは積極的に症例提示をおこない、討論に参加する。

形成外科学会地方会などで演題発表する。

手術参加の心得：手術は基本的に助手としての参加から始め、部分的に術者として手術を行い、徐々に分担を増やすことで手術全体の流れを習得する様に努める。

専門研修3年目

マイクロサージャリー、クラニオフェイシャルサージャリーなどより高度な技術を要する手術手技の基礎を習得する。手足や耳介の先天異常、唇顎口蓋裂の手術、筋皮弁、穿通枝皮弁などの適応・手術手技を修得する。また、末梢血管障害や糖尿病などに伴う難治性潰瘍、褥瘡などの治療について学び、指導医の助言のもとで、方針決定などを自ら行えるようにする。

学術活動：学会発表・論文作成を行うための基本的知識の実践。形成外科学会総会や関連全国学会などで演題発表し、学術論文の題材を検討する。

手術参加の心得：指導医による補助のもと、基本的に術者として手術に望む。

専門研修4年目以降

3年目までの研修事項をより深く理解し、自分自身が主体となって治療を進めていけるようにする。指導医は助言者的役割に徹した指導となる。

再建外科医として他科医師と協力の上、治療する能力を身につける。遊離組織移植などマイクロサージャリーを用いた再建手術手技を修得実践する。整容外科手技について基本を学ぶ。さらに専門性の高い分野についての知識の取得に勤め、その後のキャリアを見据えて研修が終了できるように勤める。

また、言語、音声、運動能力などのリハビリテーションを他の医療従事者と協力の上、指示、実施するなどチーム医療の中核としての役割を実践する。

専門医申請のための症例をそろえ、学術論文を作成する。

医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性などについて

専攻医は、医師として自己管理能力を身につけ、生涯にわたり基本的診療能力（コアコンピテンシー）を涵養する努力が必要です。基本的診療能力には領域の知識・技能だけでなく、態度、倫理性、社会性などが含まれます。指導医と共にプロフェッショナルを目指しましょう。以下に専門研修プログラムでの具体的な目標、方法を示します。

1) 医師としての責務を自律的に果たし、患者に信頼されるコミュニケーション能力

領域における専門的知識・技能を身につけ、診断能力を高めることはプロフェッショナルとして当然です。さらに疾患について説明できるだけでなく、相手の立場になって聞くことができ疑問に答えられなければ信頼を得ることは出来ません。分からないことは、誠意をもって調べて回答しましょう。形成外科領域では治療方法が手術となることが多く、その必要性、危険性、合併症とその対策、予後、術後の注意点などについて、医師や患者・家族がともに納得できるようなインフォームドコンセントについて指導医のもとで学習し、実践します。また、治療経過や結果についての的確に把握し、患者に説明できなければなりません。治療期間や治療費についても精通しておく必要があります。

2) 患者・社会との契約を理解し実践できる能力

健康保険制度を理解し、保険医療をメディカルスタッフと協調して実践します。そのためには、医療行為に関する法律を理解し遵守しなければなりません。それらに基づきすべての医療行為や患者に行った説明などを書面化し、管理しなければなりません。診

断書・証明書などを作成や管理することも重要です。また、医薬品や医療用具による健康被害の発生防止の理解と適切な行動が求められます。これらのすべてにおいて守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができなければなりません。原則として、家族に話す内容は事前に患者の同意を得ておくべきです。

3) 医療安全を理解し、チーム医療が実践できる能力

保存療法、手術療法、その他医療行為のすべてにおいて医療安全の重要性を理解し、事故防止や事故後の対応がマニュアルに沿って実践できることが求められます。専門研修プログラムでは、施設における医療安全に関する講習会や感染対策に関する講習会にそれぞれ最低 1 年に 2 回は出席することが義務づけられています。これらの講習会は、日本形成外科学会でも開催されており、積極的に参加し日常の診療にフィードバックすることが大切です。また、チーム医療が多いことは形成外科の大きな特徴であり、他の医療従事者と良好な関係を構築し協力して患者の診療にあたることが重要です。臨床の現場から疑問に思うことや今社会が医療に求めていることを自ら感知し、研究する姿勢が大切であり、その態度が後輩の模範となるよう努めます。チーム医療の一員として指導医のもとに患者を受け持ち、学生や後輩医師の教育、指導も積極的に行います。もちろん専攻医自身もチームの一員として様々なメンバーから指導を受けることができます。

4) 問題対応能力と提示できる能力

指導医は専攻医が、専門医として独り立ちできるよう努めますが、独り立ちとは通り一遍のことができるようになるということではありません。臨床上の疑問点を解決するための情報を自ら収集および評価し、患者への対応を実践します。EBM は、当然その基礎となります。専門研修プログラムでは、症例に関するカンファランスが設定されていますが、これに積極的に参加し、呈示と討論ができるようにしてください。専攻医は受け持ち患者についての疑問を提示し、同僚や指導医から提示された疑問については EBM に沿って批判的吟味を行うことが重要です。また、臨床研究や治験の意義を理解し、参加する姿勢も大切です。

7 研修方略

1. 専門研修プログラムでの研修

専攻医は、専門研修カリキュラムに基づいて、当該研修委員会が設定して専門研修プログラムで研修を行う。これにより、系統だった偏りのない研修が行える。

2. 臨床現場での学習 (On the Job Training)

臨床現場における日々の診療が最も大切な研修であり、専門研修施設内で専門研修指導医のもとで行う。カンファレンスや抄読会、助手として経験した症例でも詳細な手術記録を記録する等の活動も積極的に行う。

⇒各施設の週間スケジュールを参考のこと。

3. 臨床現場を離れた学習 (Off the Job Training)

臨床現場以外の環境で学ぶ。例として、医師としての倫理性、社会性に関する職場外研修や知識獲得のための学術活動を行う。国内外の学会や講習会への参加、医療倫理に関する講習会や医療安全セミナー、リスクマネジメント講習会、感染対策講習会等へも積極的に参加し記録する。

⇒形成外科および関連学会の年間スケジュールを参考のこと。

4. 自己学習

自己学習は、生涯学習の観点から重要な方法である。これによって学習すべき内容を明確にできる。学会発行の学術誌やガイドライン、英文雑誌 (Plastic and Reconstructive Surgery など)、インターネットを通じての文献検索 (医学中央雑誌、PubMed, Up to Date のような電子媒体)、e-learning などを活用する。

自己学習の環境として、各施設では図書館やインターネットアクセスが整備されている。

各施設の週間スケジュール

沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 【基幹施設】

曜日	朝 7:30-	AM	PM
月曜日	頭蓋顎顔面センターカンファレンス (第2)	手術 (全麻・入院) 外来 (頭蓋顎顔面)	手術 (全麻・入院) 外来 (頭蓋顎顔面)
火曜日	形成外科レクチャー 新患紹介カンファレンス*	外来 (成人・小児)	外来 (成人・小児)
水曜日	形成外科レクチャー	手術 (全麻・入院)	手術 (全麻・入院)
木曜日	抄読会 (PRS) (第1、3) 術前カンファレンス (第2、4) 手外科リハビリカンファ (隔月)	病棟管理	
金曜日	形成外科レクチャー又は グラウンドラウンド 新患紹介カンファレンス*	外来	外来(小児形成)

※当直業務：外科当直にて外科患者の管理、外科救急疾患を学ぶ：月3回程度

■術前カンファレンス・症例検討会

担当症例の術前計画をプレゼンテーションし、討論する。原則、英語で行う。この結果、国際学会での発表や外国人のコンサルタントへの症例相談を行えるようになる。

第2,4木曜日 中部病院形成外科と合同 場所：第2(医療センター)、第4(中部病院)

■頭蓋顎顔面センターカンファレンス(第2水曜日7:30～) 場所：講堂。形成外科、口腔外科、矯正歯科合同での症例検討会(当院のほか、他の県立病院、および協力関係にある県内矯正歯科医の参加による)

■手外科リハビリカンファレンス(不定期：木曜日16:30～を基本とする)

■抄読会(PRS Journal Club)

最近のトピック・トレンドの確認：Plastic and Reconstructive Surgery より課題を出す。

英語文献を読む習慣をつける(週1編) 1編10分程度にまとめる

指導医はコメンテータとして読み方、内容の補足を行う、

■グラウンドラウンド(不定期)

日常診療で生まれた疑問、興味のある分野、病態に関連した知識のまとめ

臨床に即応できる知識形態を意識した「知識の再構築」の作業であり、一例一例を深く経験できるための基礎となる。

■形成外科レクチャー(不定期)；形成外科の基本レクチャー、外科総論(手術心得等)ほか。

■新患紹介カンファレンス 夕方回診前*に当日の外来新患の紹介と治療方針の概要を検討する

沖縄県立中部病院

曜日	朝 8:00-	AM	PM
月曜日	PRS Journal club (第1、3) *	外来	外来
火曜日	新患紹介カンファレンス M&M カンファレンス (第2)	手術	手術
水曜日		手術 (第2、4)	手術 (第2、4)
木曜日	術前カンファレンス (第2、4) **	外来	外来 手術
金曜日	手の外科リハビリテーションカンファレンス (第4) ***	手術	手術

※時間外業務：オンコール体制で救急より形成外科疾患の診察依頼があれば対応する。
業務応援を行っている、八重山病院、宮古病院、北部地区の総合病院の手術応援を適宜行う

*隔週で Plastic and Reconstructive Surgery の抄読会

** 術前カンファレンス：英語でのプレゼン・討論を基本とする

中部病院4西病棟カンファレンス室

***リハビリテーション室

■抄読会 (PRS Journal Club)

最近のトピック・トレンドの確認

参加者全員が一冊を読破して抄読会にのぞみ、議論を深める。英語文献を読む習慣をつける。

■症例検討会

担当症例の術前計画をプレゼンテーションし、議論する。全て英語で行う。この結果、国際学会での発表や外国人のコンサルタントへの症例相談を行えるようになる。

形成外科 KC

曜日	朝 7:30-	AM	PM
月曜日			休診日
火曜日		外来・手術	外来・手術
水曜日		外来・手術	外来・手術
木曜日		外来・手術	休診
金曜日		外来・手術	外来・手術

※土日診療あり

名古屋大学医学部附属病院

【相互連携基幹施設】

曜日	朝 8:30～	AM	PM	
月曜日	形成外科カンファレンス*	手術（全麻・入院）、頭頸部再建など		
火曜日		教授回診 外来	局麻手術・ 再建手術	頭頸部カンファレンス・乳腺カンファレンス・整形外科カンファレンス（月1回）**
水曜日		手術（全麻・入院）・再建手術 外来		
木曜日		手術（全麻・入院）、頭頸部再建など 外来		形成外科カンファレンス*** 合同検討会・グラウンドラウンド****
金曜日		外来	局麻手術・ 再建手術	

※オンコール体制で救急部より形成外科疾患の診察依頼があれば対応する。

* 術後症例について、ホワイトボードでシェーマを描きながら報告する。手術への理解を深めるとともに、専門医試験に向けてのプレゼンテーションのトレーニングの一貫として行っている。外来・入院での問題症例について提示し、全員で治療方針の検討および確認を行う。

** 頭頸部カンファレンス：耳鼻咽喉科、口腔外科、脳神経外科、皮膚科などと頭頸部悪性腫瘍や血管奇形などについて診断、治療、手術（切除・再建）について、互いに意見を出して治療方針を検討する。

乳腺カンファレンス：乳腺外科とのカンファレンスにおいて診断、病期、切除予定、再建予定と補助療法について検討を行い方針を検討する。

整形外科カンファレンス：整形外科骨軟部腫瘍グループとのカンファレンス、診断、手術方法、再建方法について検討する。形成外科診療における悪性を疑う軟部腫瘍についても検討を行い unplanned 切除を予防する。

*** 3週間後の手術症例および外来・入院での問題症例について提示し、全員で治療方針の検討および確認を行う。

**** 名古屋大学及び関連病院を含めた範囲で、年間に合同検討会6回程度、グラウンドラウンド8回程度を行う。合同検討会では各回のテーマを設けて、診療や手術における問題点や課題などについて議論する。グラウンドラウンドでは専攻医が指定されたテーマについて専門医試験対策と最新の知見を含めて学習して提示する。

鳥取大学附属病院

【相互連携基幹施設】

曜日	AM	PM
月曜日	病棟回診 奇数週 手術（全麻・入院）	手術（全麻・入院）
火曜日	病棟回診 外来	外来
水曜日	病棟回診	他科合同手術
木曜日	外来 病棟回診	手術（局麻）日帰り 他科合同手術・カンファレンス・抄読会
金曜日	手術（全麻・入院） 病棟回診	手術（全麻・入院）

※ オンコール体制で救急部より形成外科疾患の診察依頼があれば対応する。

*火曜日の午前に入院患者の問題点、治療方針の検討および確認を行う。

*火曜日の外来終了後に、次週手術症例の術式の確認、問題点を確認する。また、前週に行った手術の説明を行う。

*必要に応じて他科とのカンファレンスを行い、治療方針を検討する。

九州大学病院

【相互連携基幹施設】

曜日	朝 8:00-	AM	PM
月曜日	形成カンファレンス*	外来 手術（全麻・入院）	手術（全麻・入院）
火曜日		病棟処置	手術（局麻）日帰り 病棟処置
水曜日		外来 手術（全麻・入院）	手術（全麻・入院）
木曜日		手術	手術（全麻・入院） 病棟処置
金曜日	形成術後カンファレンス** 抄読会***	外来 病棟処置	外来（リンパ浮腫外 来）

※ オンコール体制で救急部より形成外科疾患の診察依頼があれば対応する。

* 次週の手術症例および外来・入院での問題症例について提示し、全員で治療方針の検討および確認を行う。

** 術後症例の経過について、写真を提示しながら報告する。経過が不良の症例では治療方針の再検討を行う。

*** 毎月第3金曜に Plastic and Reconstructive Surgery の代表的な論文について抄読会を行う。

その他、整形外科、耳鼻咽喉科、一般外科、脳外科、小児外科等のカンファレンスに適宜参加し、形成外科の介入が必要な症例があれば、互いに意見を出して治療方針を検討する。

九州がんセンター

【相互連携施設】

曜日	朝	AM	PM
月曜日		病棟処置	頭頸科再建手術
火曜日	乳腺科カンファレンス* 形成外科カンファレンス**	外来 病棟処置	外来
水曜日		病棟処置	頭頸科再建手術
木曜日	頭頸科カンファレンス***	外来 病棟処置 乳腺科再建手術	乳腺科再建手術 整形外科再建手術 頭頸科回診・カンファレンス****
金曜日		手術（局麻、全麻） 病棟処置	手術（局麻、全麻）

* 乳腺科再建手術のある週にカンファレンスに参加し、手術内容の検討と確認を行う。

** 次週の手術症例および外来・入院での問題症例について提示し、治療方針の検討および確認を行う。

*** 頭頸科再建症例について、頭頸科医師と手術内容の検討と確認を行う。

**** 頭頸科治療症例について放射線科医師、薬剤師を交えて治療内容の検討と評価を行う。

琉球大学病院

【相互連携基幹施設】

曜日	朝 7:30-(水) 8:00-(金)	AM	PM
月曜日		手術（入院）	手術（入院） 外来
火曜日		外来	病棟処置 （他科手術支援）
水曜日	形成カンファレンス*、勉強会**	手術（入院） （頭頸部再建）	手術（入院） （頭頸部再建）
木曜日		外来	病棟処置、外来 （他科手術支援）
金曜日	耳鼻科カンファレンス	手術（頭頸部再建）	手術（頭頸部再建）

※ オンコール体制で救急部より形成外科疾患の診察依頼があれば対応する。

* 次週の手術症例および術後症例について写真や画像を含めて提示し、全員で治療方針の検討および確認を行う。

** 形成外科の基本的な診察や疾患概念、手術法、最近の知見等、各々がきめたテーマについて持ち回りで勉強会を行う

その他、心臓血管外科、整形外科、外科等から支援依頼がある場合には適宜カンファレンスを行い協力して診療にあたる。

年間スケジュール (例年)

【主な全国学会一覧】

2月	日本形成外科手術手技学会 日本眼瞼義眼床手術学会
3月	日本性同一性障害(GID)学会
4月	日本形成外科学会 日本手外科学会
5月	日本口蓋裂学会 日本顔面神経学会
6月	日本リンパ学会 日本頭頸部癌学会 日本熱傷学会
7月	日本創傷外科学会 日本乳癌学会 日本血管腫血管奇形学会
8月	
9月	日本美容外科学会 日本褥瘡学会
10月	日本形成外科学会基礎学術集会 日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会
11月	日本頭蓋顎顔面外科学会 日本マイクロサージャリー学会

※このほか、各分野の国際学会への参加も推奨します

【地域の学会】

沖縄県医師会医学会総会：

年2回開催：6月と12月の上旬に開催される。

県内全域の各科医師が参加する。形成外科診療を地域の各科にアピールする機会となる。

沖縄形成外科研究会：

年3回開催：

内2回は症例検討会、1回は外部講師を招聘しての特別プログラムが開催される。

九州・沖縄形成外科学会

年3回開催：3月、7月、11月に開催される。

8 評価方法

専攻医の評価時期と方法

研修の成果である研修医の評価では、その目的から次の2種類が大別される。

■ 形成的評価 Formative Evaluation または診断的評価 Diagnostic Evaluation :

テーマ（研修単位）の目標を修得しているか否か、つまり研修中にその形成過程の改善を目的とする評価である。その結果は研修医の学び方や指導者の教え方を是正し、研修改善へのフィードバック資料となる。

■ 総括的評価 Summative Evaluation :

達成された研修成果の程度を総括的に把握するための評価で、通常、分野（科目）や全プログラムの終了した時期に＜合否や及落判定のために＞行なわれる。従来わが国の医学教育で行なわれてきた試験の大部分はこれに当るものであり、形成的評価は軽視されてきた。

形成的評価

フィードバックの方法とシステム

専攻医が専門研修の到達レベルを知るために、形成外科領域指導医・指導責任者のチェックを受けた研修目標達成度評価報告と経験症例数報告（専門研修手帳など）を専門研修プログラム管理委員会に提出する。書類提出時期は年度の間と年度終了直後とする。専攻医の研修実績及び評価の記録は保存され、専門研修プログラム管理委員会は中間報告と年次報告の内容を次年度の研修指導に反映させるために精査する。その結果は直ちに形成外科領域指導医・指導責任者に伝えられ、指導医はその結果を研修指導にフィードバックさせる。

総括的評価

1) 評価項目・基準と時期

評価は研修目標達成度評価報告と経験症例数報告をもとに専門研修プログラム管理委員会が行う。そして、最終専門研修年度（専攻研修4年目、卒後6年目）を終えた4月に研修期間中の研修目標達成度評価報告と経験症例数報告（専門研修手帳など）をもとに総合的評価を行い、専門的知識、専門的技能、医師として備えるべき倫理性を習得したかどうかを判定する。

2) 評価の責任者

年次毎の評価は専門研修基幹施設や専門研修連携施設の形成外科領域指導医が行う。専門研修期間全体を通しての評価は、専門研修基幹施設のプログラム統括責任者が行う。

3) 修了判定のプロセス

専門研修基幹施設の専門研修プログラム管理委員会において、知識、技能、態度それぞれについて評価を行い、総合的に修了判定の可否を決定する。知識、技能、態度のひとつでも欠落する場合は専門研修修了と認めない。専門研修プログラム管理委員会は上級医・指導医の評価、さらに看護師などの他の医療従事者の意見も取り入れて研修修了の判定を行う。

4) 多職種評価

評価判定には、他職種（看護師、技師など）の医療従事者（これを測定者とする。）など第三者の意見も取り入れ、医師としての全体的な評価も行う。プログラム統括責任者は測定者の評価結果を勘案して専門研修プログラム管理委員会に報告し、その結果を基にプログラム管理委員会は総括的評価を行う。

9 プログラム管理

専門研修管プログラム管理委員会について

専門研修基幹施設と各専門研修連携施設の各々において、形成外科領域指導医から選任されたプログラム責任者を置きます。専門研修基幹施設においては、各専門研修連携施設を含めたプログラム統括責任者を置きます。

（プログラム統括責任者）

プログラム統括責任者は、専門研修プログラム管理委員会の責任者であり、専門研修プログラムの管理・遂行や専攻医の採用・修了判定につき最終責任を負います。またプログラム統括責任者は、専門研修プログラム管理委員会における評価に基づいて、専攻医の最終的な研修修了判定を行い、その資質を証明する書面を発行します。

（副プログラム統括責任者）

20名を越える専攻医を持つ場合は、副プログラム統括責任者を置き、副プログラム統括責任者はプログラム統括責任者を補佐します。

（専門研修プログラム管理委員会の役割と権限）

・専門研修基幹施設には、専門研修基幹施設と各専門研修連携施設のプログラム責任者より構成される専門研修プログラム管理委員会を置き、プログラム統括責任者がその委員会の責任者となります。

・専門研修プログラム管理委員会は、専門研修基幹施設と各専門研修連携施設のプログラム責任者の緊密な連絡のもとに、専門研修プログラムの作成やプログラム施行上の問題点の

検討や再評価を継続的に行います。例として、各連携施設が研修のどの領域を主に担当するか（例えば形成外科一般、小児治療、癌治療、熱傷治療、美容など）を明示し、専門基幹施設が専門研修プログラム管理委員会を中心として、専攻医の連携施設での研修計画、研修環境の整備・管理を行います。

- ・専門研修基幹施設は、専門研修プログラム管理委員会を中心として専攻医と連携施設を統括し、専門研修プログラム全体の管理を行い専攻医の最終的な研修修了判定を行います。

- ・各専攻医の統括的な管理（専攻医の採用や中断、専門研修基幹施設や専門研修連携施設での研修計画や研修進行の管理、学習機会の確保、研修環境の整備など）や評価を行います。

- ・各専門研修連携施設において適切に専攻医の研修が行われているかにつき各専門研修連携施設を評価して、問題点を検討し改善を指導します。

- ・専門研修基幹施設と各専門研修連携施設の各々において、領域指導医と施設責任者の協力により定期的に専攻医の評価を行うとともに、専攻医による領域指導医・指導体制に対する評価も行います。これらの双方向の評価を専門研修プログラム管理委員会で検討し、プログラムの改善につなげます。

（専門研修連携施設での委員会組織）

専門研修連携施設においては、指導専門医と形成外科領域専門医より構成する専門研修プログラム管理委員会を置き、指導専門医から選任された専門研修プログラム連携施設担当者が委員会の責任者となります。

専門研修連携施設での委員会の責任者である専門研修プログラム連携施設担当者は、専門研修基幹施設と各専門研修連携施設のプログラム責任者より構成される専門研修プログラム管理委員会の一員として、専門研修プログラム管理委員会における役割を遂行します。

専門研修連携施設の専門研修プログラム管理委員会は、専門研修連携施設におけるプログラムの作成・管理・改善を行い、また各専攻医の管理（専門研修連携施設での研修計画や研修進行の管理、学習機会の確保、研修環境の整備など）や評価を行ないます。

専門研修プログラムの改善方法

当形成外科専門研修プログラムでは専攻医からのフィードバックを重視して専門研修プログラムの改善を行うこととしています。

1) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、年次毎に指導医、専攻医指導施設、専門研修プログラムに対する評価を行います。また、指導医も専攻医指導施設や専門研修プログラムに対する評価を行います。専攻医や指導医等からの評価は、専門研修プログラム管理委員会に提出され研修プログラム

管理委員会は専門研修プログラムの改善に役立てます。このようなフィードバックによって、専門研修プログラムをより良いものに改善していきます。

(1) 指導医に対する評価

専攻医は指導医に対する評価を5段階で行い、指導医の問題点や自らの要望などをアンケート用紙に記載する。それを専門研修プログラム管理委員会が取りまとめ、専門研修基幹施設の責任者にフィードバックする。ただし専攻医の安全が守られるように専攻医名は匿名にされることがある。

(2) 研修プログラムに対する評価

専攻医は研修プログラムに対する評価を5段階で行い、システム上の問題点や自らの要望などをアンケート用紙に記載する。それを専門研修プログラム管理委員会が取りまとめ、専門研修基幹施設の責任者にフィードバックする。

以上(1)と(2)は研修マニュアルに明記し、専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価が領域の整備基準にシステムとして組み込まれていることと専攻医の安全が守られていることを記載する。

2) 専攻医等からの評価(フィードバック)をシステム改善につなげるプロセス

専門研修基幹施設および専門研修連携施設では、各施設における専攻医からの評価(フィードバック)を領域指導医、専攻医とともに相補的に検討し、プログラムの改善を行う。専門研修プログラム管理委員会を原則として1年に1回以上開催してプログラムの管理、運用状況を定期的に評価し、指導医、専攻医の評価を加味してプログラム改善へ寄与する。また、問題が大きい場合や専攻医の安全を守る必要が生じた場合は、研修委員会の協力のもと外部評価委員会にその評価を委託することがある。

専門研修プログラム管理委員会は必要と判断した場合、専攻医指導施設の実地調査および指導を行います。評価にもとづいて何をどのように改善したかを記録し、毎年3月31日までに日本専門医機構の形成外科専門研修委員会に報告します。

3) 研修に対する監査(サイトビジット等)・調査への対応

専門研修プログラムに対して、日本形成外科学会または日本専門医機構からサイトビジット(現地調査)が行われます。その評価にもとづいて、専門研修プログラム管理委員会で研修プログラムの改良を行います。専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構の形成外科研修委員会に報告します。

専門研修指導医

指導医の基準については、指導医は一定の基準を満たした専門医であり、専攻医を指導し評価を行います。

専門研修指導医の要件：

学会専門医が領域専門医に移行するまでの暫定期間(2023年3月までの期間)においては、形成外科専門医の資格を有し、1回以上更新を行ったもの専門研修指導医とします。

暫定期間後は、形成外科領域指導医制度に定める形成外科領域指導医(機構専門医での更新を1回以上行い、かつ複数の分野指導医・特定分野指導医資格を持つもの)が専門研修指導医となります(下表参照)。

指導医のフィードバック法の学習：

指導医は各所属認定施設や学会主催の講習会などのうち日本専門医機構が認めるものにおいて、フィードバックの方法についての講習を受けます。指導医講習会の受講は、指導医認定や更新のために必須です。

* 指導医制度第3条にいう分野指導医認定の対象となる学会と分野指導医名称は以下の通り

- (1) 日本手外科学会(手外科分野指導医)
- (2) 日本美容外科学会(JSAPS)(美容外科分野指導医)
- (3) 日本創傷外科学会(創傷外科分野指導医)
- (4) 日本頭蓋顎顔面外科学会(頭蓋顎顔面外科分野指導医)
- (5) 日本熱傷学会(熱傷分野指導医)

* 日本形成外科学会 特定分野指導医は以下の通り

- (1) 皮膚腫瘍外科分野指導医
- (2) 小児形成外科分野指導医
- (3) 再建マイクロサージャリー分野指導医

10 プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

以下のプログラム運用マニュアル・フォーマットを整備する。

- | | |
|-------------------------|--------|
| (1) 専攻医研修マニュアル | (資料 A) |
| (2) 指導医用マニュアル | (資料 B) |
| (3) 医師としての適性の評価シート | (資料 3) |
| (4) 専攻医専門研修実績記録フォーマット | (資料 4) |
| (5) 研修開始時の目標 (アウトカム) | (資料 5) |
| (6) 指導医による指導とフィードバックの記録 | (資料 6) |

1 専攻医研修マニュアル

形成外科領域専門研修カリキュラム (資料 1) に従い以下の項目を記載する。研修修了時には、これらの項目の達成状況を評価するために、領域指導医 (または直接指導を受けた形成外科領域専門医) に自筆サインをもらう。

- (1) 専門医資格取得のために必要な知識・技能・態度について
- (2) 自己評価と他者評価による年次ごとの評価及び形成的評価
- (4) 専門研修プログラムの修了要件と総括的評価
- (5) 専門医申請に必要な書類と提出方法
- (6) 専攻医による指導医及び研修プログラムに対する評価
- (7) その他 資料

2 指導者マニュアル

プログラム担当者の要件は以下の3つの条件を満たすものとする。①日本形成外科学会領域指導医で、かつその施設の常勤医であること。②学会に認定された研修認定施設 (認定は毎年更新手続きが必要) に勤務し、かつ十分な指導力を有すること。③学会が定めた教育目標に沿った教育カリキュラムを実施していること。

- (1) 専門医資格取得のために必要な知識・技能・態度について
- (2) 専攻医が経験すべき症例、手術、検査等の種類と数について
- (3) 自己評価と他者評価による年次ごとの評価 (形成的評価)
- (4) 専門研修プログラムの修了要件
- (5) 専門医申請に必要な書類と提出方法
- (6) 指導医の要件
- (7) 指導医として必要な教育法
- (8) 専攻医に対する評価法 (総括的評価)
- (9) その他 資料

3 医師としての適性の評価シート

専攻医は、医師として自己管理能力を身につけ、生涯にわたり基本的診療能力（コアコンピテンシー）を涵養する努力が必要です。基本的診療能力には領域の知識・技能だけでなく、態度、倫理性、社会性などが含まれます。コアコンピテンシーの各領域について自己および他者による評価を行いフィードバックする。

4 専攻医研修実績記録フォーマット

形成外科領域専門研修カリキュラム（資料1）に基づいて、専攻医が経験すべき症例、手術、検査等の種類と数について、研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が自己評価を行い、定期的な他者による形成的評価により、年次ごとの実績を記録するためのフォーマット。実績の達成度は一定期間に一回専攻医にフィードバックされる。

5 研修開始時の目標（アウトカム）

研修開始時に終了時の自己のイメージを描くことは大切なことである。研修開始時の目標（アウトカム）と、そのために必要と考える研修課題を記入して研修のスタートとする。その内容はその後の形成的評価の際にフィードバックの観点ともなる。

6 指導医による指導とフィードバックの記録

研修実績の自己評価の記録に基づいて、一定の経験を積むごとに指導医は形成的評価を行い、その結果をフィードバックし記録する。